

認知症を有する糖尿病透析患者における DPP-4 阻害薬の有効性 ～皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価～

長崎腎病院

○内野真理子 山中真樹子 内山浩子 下田美智子 青柳真生 久保純子
丸山祐子 原田孝司 船越 哲

【背景】

認知症・家族支援不良など、自立困難な高齢透析患者では、糖尿病の薬物治療は困難を伴う。近年、経口の DPP-4 阻害薬が透析患者に使用可能となった。本薬は低血糖を生じにくく、高齢者への安全性が期待される。

【対象・方法】

自立困難な外来透析患者に対する DPP-4 阻害薬の効果を、CGM (メドトロニック社) にて評価した。

【症例 1】

78 歳男性、妻と二人暮らし。認知症のためインスリン投与が困難であるが、妻の内服管理は可能。

【症例 2】

80 歳男性、妻と二人暮らし。認知症あるが介護サポートは拒否。

【症例 3】

69 歳男性、軽度の精神遅滞。自己注射手技に問題あり。症例で、インスリンからリナグリプチンへ切替え、外来通院が可能となった。低血糖は生じなかった。

【結語】

DPP-4 阻害薬は、自己管理が困難な高齢透析患者には有用と思われ、CGM の結果からも安全性が確認できた。